

REIM産学連携コンソーシアム合同会議（令和5年度第2回）議事録

(表中敬称略)

会議名	REIM産学連携コンソーシアム合同会議（第2回）		
日時	令和6年3月5日（火）14:00～16:00		
場所	近畿建設協会及びオンライン		
出席者（計16名）			
役職等	所属（学校等・部門・部署）	役職	氏名
産	一般社団法人近畿建設協会	理事・技師長	黒谷 努
産	一般社団法人近畿建設協会技術 部	部長	栗津 誠一
産	西日本高速道路株式会社 （技術環境部）	技術研修・開発担当課長 （茨木技術研修センター長）	三好 真史
産	西日本高速道路株式会社 （関西支社）	構造担当部長	佐溝 純一
産	シビル・ベテランズ&ボランテ ィアズ	会員（瀧上工業株式会社）	先本 勉
官	国土交通省近畿地方整備局 企画部	技術調整管理官	田中 徹
官	国土交通省近畿地方整備局近畿 技術事務所	近畿技術事務所長	増田 安弘
官	京都府北部社会基盤メンテナ ンス推進協議会	舞鶴市建設部 次長 （副会長（舞鶴市建設部長）白 木治彦 代理）	東山 直
学（連携校）	長岡工業高等専門学校	助教	白井 一義
学（連携校）	福井工業高等専門学校	教授	辻野 和彦
学（代表校）	舞鶴工業高等専門学校	教授・社会基盤メンテナ ンス教育センター長	玉田 和也
学（代表校）	舞鶴工業高等専門学校	准教授・社会基盤メンテナ ンス教育センター副センター長	毛利 聡
学（代表校）	舞鶴工業高等専門学校	特命准教授	嶋田 知子
学（代表校）	舞鶴工業高等専門学校	特命助教	掛 園恵
学（連携校）	香川高等専門学校	校長	田中 正夫
学（連携校）	香川高等専門学校	准教授・社会基盤メンテナ ンス教育センター長	林 和彦
オンライン出席（計14名）			
官	京都府北部社会基盤メンテナ ンス推進協議会	副会長（京都府中丹広域振興局 建設部長）	細井 浩一
オブザーバ ー	京都府中丹東土木事務所企画調 整課		水上 真由子
学（連携校）	福島工業高等専門学校	校長	田口 重憲
学（連携校）	福島工業高等専門学校	教授	齋藤 充弘
学（連携校）	福島工業高等専門学校	助教	浅野 貴元
学（連携校）	福島工業高等専門学校	助教	相馬 悠人
学（連携校）	長岡工業高等専門学校	校長	小林 幸夫
学（連携校）	長岡工業高等専門学校	教授	井林 康
役職等	所属（学校等・部門・部署）	役職	氏名

学 (連携校)	長岡工業高等専門学校	教授	陽田 修
学 (連携校)	福井工業高等専門学校	准教授	樋口 直也
学 (代表校)	舞鶴工業高等専門学校	校長	林 康裕
学 (代表校)	舞鶴工業高等専門学校	総務課長	増永 武夫
学 (連携校)	香川高等専門学校	助教・社会基盤メンテナンス教育センター副センター長	入江 正樹
学 (連携校)	放送大学学園	オンライン教育センター長 ・教授	中谷 多哉子

議事次第

1. 議長挨拶 舞鶴工業高等専門学校 校長 林 康裕

2. 議事

(1) 部会からの報告 (報告)

- ・実務家教員育成研修プログラム開発部会 (R5.vol.2) 報告 …… 資料 1-1
- ・実務家教員育成研修プログラム開発部会 (R5.vol.2) 議事概要 …… 資料 1-2

(2) KOSEN-REIM事業の取組と成果 (審議)

- ・KOSEN-REIM事業の取組と成果 …… 資料 2

(3) 意見交換

- ・テーマ「REIM産学連携コンソーシアムの今後の活用について」

3. その他 (今後の予定, 事務連絡等)

- ・令和 6 年度 事後評価 (文部科学省)

以上



写真 6.2.6 舞鶴高専 林校長挨拶



写真 6.2.7 会場風景



写真 6.2.8 対面参加者



写真 6.2.9 オンライン参加者

日時：令和6年3月5日（火）15:00～17:00
場所：近畿建設協会会議室（オンライン併用）

1. 議長挨拶 舞鶴工業高等専門学校 校長 林 康裕

2. 議事

(1) 部会からの報告（報告）

- ・実務家教員育成研修プログラム開発部会（R5.vol.2）報告 …… 資料1-1
- ・実務家教員育成研修プログラム開発部会（R5.vol.2）議事概要 …… 資料1-2
- ✓ 受講生および上司へのヒアリングが実施されたことは、受講による効果検証としては有意義な情報である。今後受講を検討する企業への情報提供がなされると良い。
- ✓ 広報としては、日経コンストラクションや土木学会誌など影響力のある媒体への持ち込み、露出の努力が必要である。

(2) KOSEN-REIM事業の取組と成果（審議）

- ・KOSEN-REIM事業の取組と成果 …… 資料2
- ✓ 放送大学ではデータサイエンスに関する教育コンテンツの開発に取り組んでいる。持続可能性という観点では世の中のニーズを踏まえて、生ものにならないような取扱いに苦労している。最新技術のみを教えるのではなく、AIの歴史的背景、基盤技術で勝負をすることで教育の質を高めていきたいと考えている。
- ✓ 専門特修講座【建設ICT】は良いコンテンツである。技術発展が著しい分野のため、最新情報にアップデートしながら継続いただきたい。
- ✓ 専門特修講座の受講促進は、今後の継続開催に向けた課題である。
- ✓ 行政機関としては、インフラメンテナンスの重要性は認識している。一方で、公務員の業務の多様化、異動に伴い、インフラメンテナンスだけに注力できない現状がある。
- ✓ 行政からの受講者を送り込むことは、行政機関の使命でもあり、業務とのバランスに苦労している。時間、費用的な負担を減らしながら、職員のスキルアップを推進していく。
- ✓ 継続的な活動のためには、高専間の連携が大切である。
- ✓ 実務家教員育成研修プログラムを受講することで、受講生や企業にどのようなメリットがあるのか見えるPRがあると良い。

(3) 意見交換

- ・テーマ「REIM産学連携コンソーシアムの今後の活用について」
- ✓ 本コンソーシアムの位置付け、参画団体の整理が必要である。
- ✓ 今後も連携してリカレント教育に取り組んでいくためにも、参集するコアになる場としてコンソーシアムを継続したい。参画団体の整理は検討事項である。
- ✓ 舞鶴の取り組みを4高専に拡大、更に全国の高専へ拡大するよう活動していきたい。
- ✓ 全国拡大として、岐阜高専、阿南高専など興味を持っている高専はある。また、橋の老朽化対

策研究会の13高専にも呼び掛けていく。

- ✓ 持続可能なインフラメンテナンス取組みのためには、国交省や自治体へのきめ細かい情報提供が必要である。行政会員数などきめ細かい情報発信を通して、会員・受講者増に繋げていきたい。
- ✓ コンソーシアムが市町のインフラメンテナンスレベルアップにどうメリットがあるのか分かりにくいように感じた。分かりやすく整理したうえで、行政間の情報共有の場で、紹介することは可能である。
- ✓ コンソーシアムの継続には賛同する。
- ✓ 人材育成に予算が付かないことが課題である。「人（個人）」に直接予算を付けることは難しいが、組織として研修を企画して開催することは可能である。
- ✓ メンテナンスの重要性、リカレント・リスクリングの機運は高まっている。

3. その他（今後の予定、事務連絡等）

以上